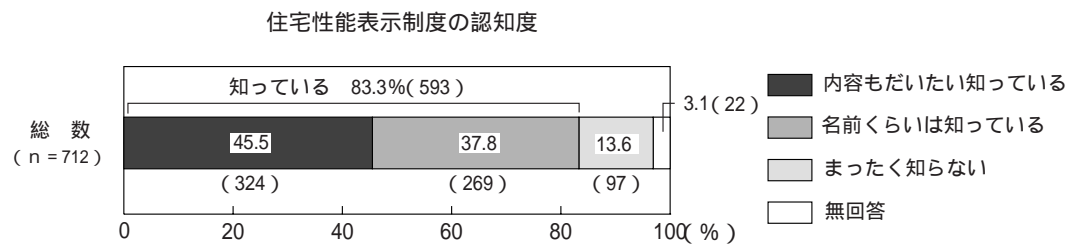


平成13年度住宅市場動向調査（住宅性能評価アンケート）結果の 主要なポイント

住宅性能表示制度の認知度

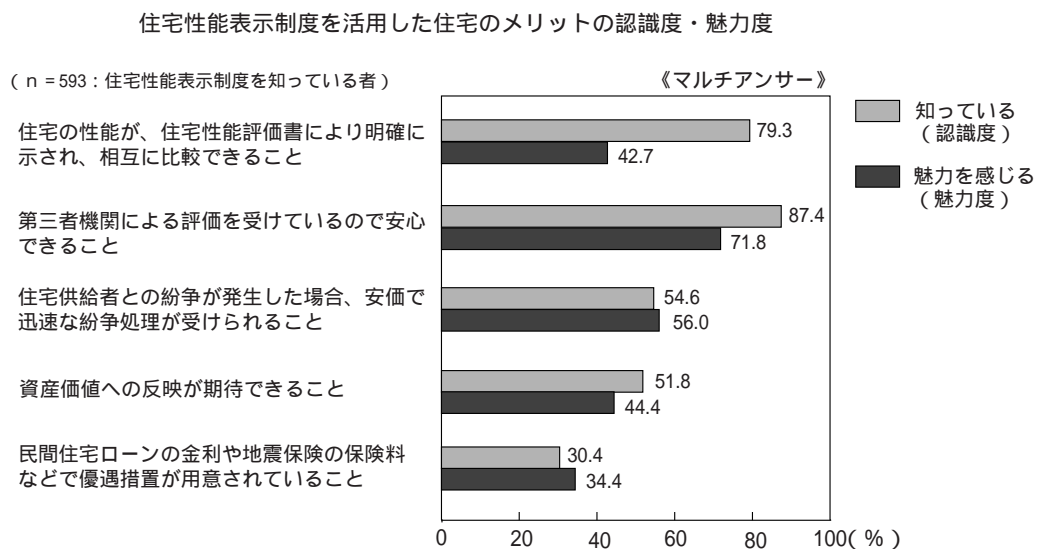
約8割の居住者が、住宅性能表示制度を知っている
（内容もだいたい知っていると答えた居住者は4割を超える）



住宅性能表示制度を活用した住宅のメリットの認識度・魅力度

約7～8割の居住者が、評価内容の信頼性が高いこと、住宅の性能が相互比較できることを
住宅性能表示制度のメリットとして認識している

一般に、住宅性能表示制度のメリットに魅力を感じる居住者の割合は、メリットを認識して
いる居住者の割合に比べて低くなっている

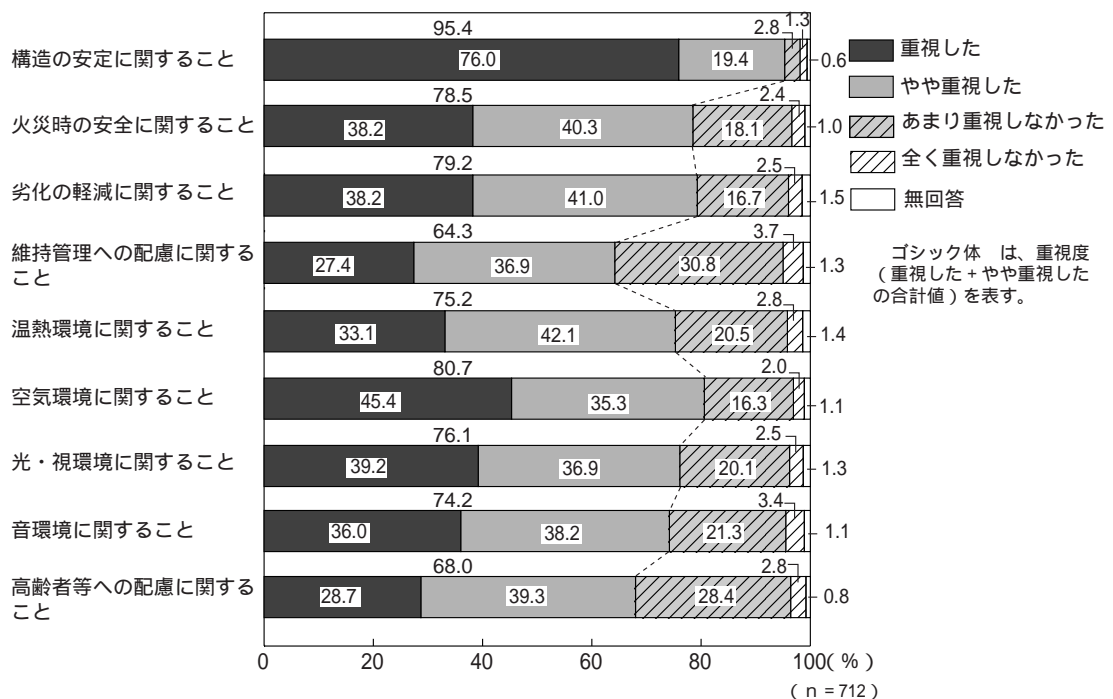


現在の住宅を取得した際の性能項目等の重視度

ほとんどの性能表示項目について、約7～8割の居住者が、現在の住宅の建築又は購入時に重視した項目としている

重視度が最も高い項目は「構造の安定に関すること」であり、逆に、最も低い項目は「維持管理への配慮に関すること」となっている

現在の住宅を建築又は購入した際の性能表示項目の重視度



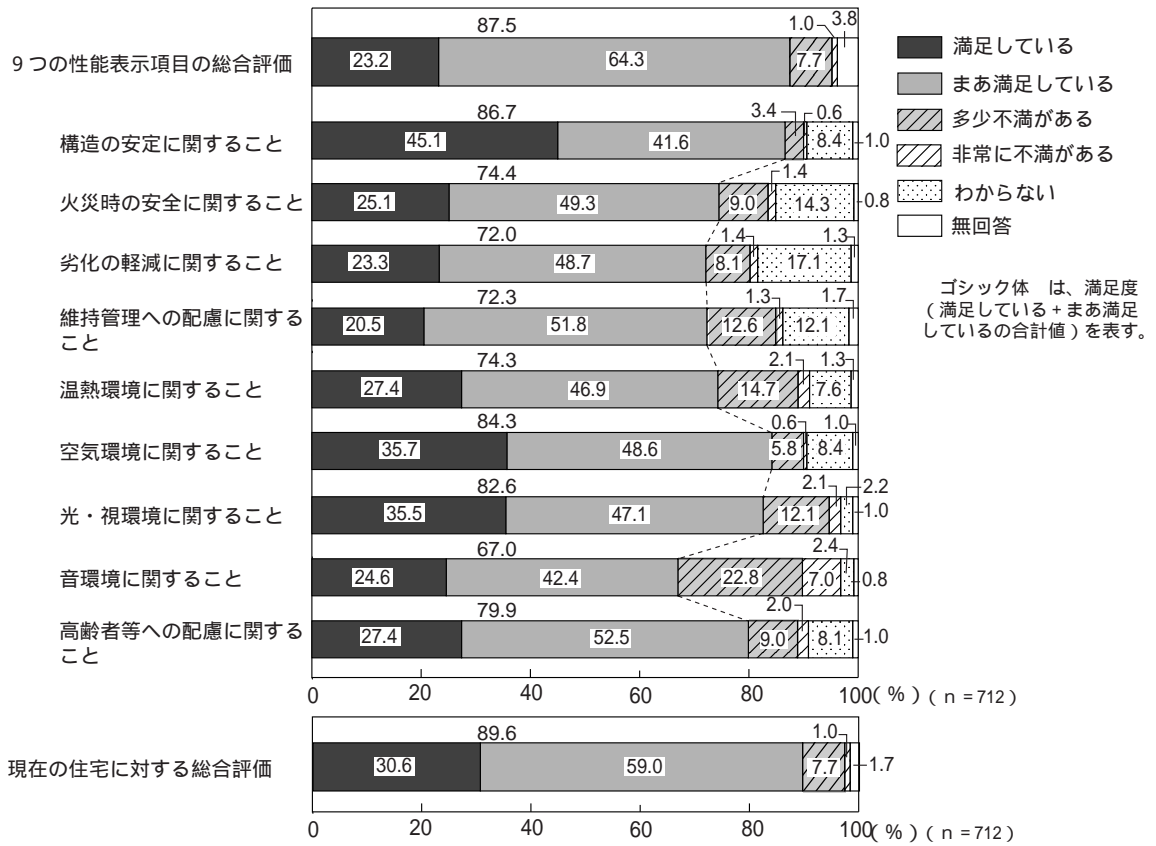
現在の住宅に対する満足度

9つの性能表示項目の総合評価について、約1/4の居住者が「満足している」と答え、「まあ満足している」とあわせると、約9割の居住者が現在の住宅の性能表示項目に満足感を抱いている

ほとんどの性能表示項目について、約7～8割の居住者が、現在の住宅の性能表示項目に満足感を抱いている

現在の住宅に対する総合評価は、9つの性能表示項目に対する満足度よりも高くなっている

現在の住宅に対する満足度



【注記】

図中の構成比に関する数字は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点以下第1位までを有効数字として表章した。

したがって、構成比の合計数字が100%とならない場合がある。